

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 畜産課長 田邊 裕彦 電話番号 0852-22-5132

事務事業の名称	家畜衛生対策事業	
目的	(1) 対象	生産者、関係機関・団体、獣医師・家畜人工授精師・動物用医薬品販売業者等。
	(2) 意図	家畜衛生を推進することにより、家畜伝染病の発生予防対策と畜産物の安全性確保を図り、畜産経営の安定化と生産性向上に資する。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 家畜の伝染性疾病を監視するため、関係者に対して家畜衛生に関する情報の収集・提供を行う。 安全な畜産物の生産を図るため、生産者に対する衛生管理の指導、獣医師等に対する動物薬事・獣医事に関する指導(法令業務)を行う。 地域で問題となっている家畜伝染性疾病的発生低減を図るため、関係者が一体となって、防疫体制の確立、飼養衛生管理基準の改善・向上等に関する取り組みを実施する。 	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	家畜衛生に係る取組の充実度	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		104.80	102.90	103.30	103.00	
式・定義	100×(1+家畜伝染性疾病的発生件数の減少率)×(1+家畜伝染性疾病的検査件数の増加率)		実績値	100.00	141.00	74.80	144.80		%
			達成率		134.50	72.70	140.20		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位		
								目標値	0.00
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00	0.00		
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b)(千円)	7,882	9,091
うち一般財源(千円)	4,752	5,133

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

平成26年度の伝染性疾病的発生状況は、高病原性鳥インフルエンザの国内発生があった。届出伝染病(BVDや豚丹毒等)や他の伝染性疾病的(牛バズツレラ症等)が散発的に発生し、昨年度より減少傾向であった。一方で検査件数は増加した。
 平成26年度 家畜伝染性疾病的発生件数：98件
 平成26年度 家畜伝染性疾病的検査件数：41,000件
 家畜衛生情報の提供：広報等の発行(15回、6,421部)

6. 成果があったこと(改善されたこと)

豚流行性下痢(PEDI)が全国的に発生し問題となったが、本県では発生していない。このことは関係機関・団体と養豚農家が一体となって防疫意識を高めたことの結果と考える。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

平成26年度は高病原性鳥インフルエンザの国内発生があり、県内での発生リスクも高い状況にある。牛白血病や豚丹毒等の慢性疾病的については、依然として散発的にと畜場で摘発されている。

②困っている状況が発生している「原因」

慢性疾病的対策は、農家の長期的・持続的な取り組みが必要である。

③原因を解消するための「課題」

関係機関・団体が一体となった長期的な農家指導を継続していく必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

生産者に対して、慢性疾病的の予防・発生低減を目的として、衛生検査等により現状把握し、衛生対策指導を実施することにより農場衛生レベルの向上を図る。また、海外伝染病的の発生予防・まん延防止のため、生産者に資料衛生管理基準の遵守を再度徹底する必要がある。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)